

[目 次]

◇はじめに（謝辞）	P1
◇小規模校サミット概要	P2～3
◇10/22(金)前夜祭「参加者交流」	P3
◇受付・開会式	P4～5
◇セッション 1（参加校取り組み紹介）	P6～8
◇セッション 2（講演）	P9
◇セッション 3（生徒交流～ワークショップ～）	P9～11
◇YouTube 配信・大人ワークショップ	P12
◇閉会式	P13
◇参加者アンケート集計結果	P14～17

◇はじめに（謝辞）



全国高等学校小規模校サミットコアメンバー 青木 蒼空（小国高校）

今年の小規模校サミットの目標は、「それぞれの想いを込めたつながるサミット」です。小規模校サミットは今年も新型コロナウイルスの影響でオンライン開催となりました。オンラインで開催できるということで、より多くの全国の仲間と「つながる」、来年、再来年、その後に「つながる」サミットを目指して準備をしてきました。

コアメンバーは夏休みから研修を重ね、今年で2回目となるオンラインサミットはどんなサミットにしたいのか、サミットが終わった後、参加してくれた人にどんな思いを持ってほしいのかを話し合い、目標を立てました。昨年は新型コロナウイルスの影響で準備期間が短かったため、Zoom の操作やオンライン上のコミュニケーションに慣れないまま本番を迎えた人も多く、大変な部分もありました。そこで今年は参加してくださる皆さんと今年のサミットの概要や、Zoom の操作について、オンラインで話す際に特に大切になってくるジェスチャー・リアクションなどについて話したり、実際にやってみたりする研修を行いました。本番でみんなと楽しく話すことができるように、また、サミットに向けての意欲を高めるという意味でもとても大切な研修になりました。ファシリテーション研修も行い、小国高校のファシリテーターと他校のファシリテーターの皆さんに参加していただきました。このファシリテーター研修で当日のワークショップのイメージをして準備を進めることができました。他にも、小国高校のコアメンバーは係ごとにパンフレットやグッズの制作、前夜祭の運営などたくさんの準備をして本番に臨みました。

本番は、研修の成果もあり、たくさんの方に楽しんで頂けて嬉しかったです。特に閉会式が終わった後に、みんながなかなか退出せず、ずっと手を振ってくれていたのが印象に残っています。「楽しんでもらえてよかった」「みんなで頑張ってたよかった」と強く感じることができました。

今年も楽しく、実りあるサミットにできたのは参加してくれた皆さん、力を貸してくださった先生方、地域の方々、東北芸術工科大学コミュニティデザイン学科の方々などたくさんのご協力があったからです。貴重な経験ができました。来年は是非直接会いたいです！本当にありがとうございました。



全国高等学校小規模校サミットコアメンバー 和田 彩日香（小国高校）

今年度の第4回小規模校サミットは、本来であれば直接、全国の仲間と出会い交流をしたかったのですが、昨年引き続きオンラインでの開催となりました。昨年、オンラインでのサミットを経験していたため、その盛り上がりを超えるような、さらにレベルアップしたサミットを作り上げていけるようにコアメンバー全員で準備を重ねてきました。

今回の小規模校サミットは、「お悩み相談」をテーマにワークショップをしました。事前にアンケートでお悩みを募集し、そのうち1つの悩みについてグループで考えを出し合いました。「小規模校の良さを知ってもらうには？」といった学校に関することや「幸せって何だろう？」といった哲学的なこと、「田舎ならではの趣味を見つけるには？」といった地域のことなど、多面からの様々な悩みが出てきました。難しい悩みに対して、初めはなかなか意見が出なかったり、どう進めたらいいのかわからなかったりしていました。しかし、研修を重ねたことや自分以外の意見を受け入れる優しい雰囲気、上手にまとめることをゴールとせずに全国の仲間と対話することを一人ひとりが大切にしたことで、徐々に意見が出てきて、とても活発なワークショップになりました。自分一人では思いつかなかった仲間の考えに触れたり、自分の考えとの共通点を見つけ出して新しいアイデアを生み出したりして、とても盛り上がりました。お悩み相談の他にも、アイスブレイク、参加校取り組み紹介などを通して、全国の仲間との仲も深まり、他校の魅力についても知ることができました。

小規模校サミットで、一人ひとり違った考えに触れて、さらに良い考えを生み出すことができる力、笑顔があふれて心が明るくなるなど、みんなと集まったことで、つながったことで一人ひとりの力が合わさり、大きな力が生まれることを感じました。サミットの運営に携われたこと、全国の仲間とつながり充実した時間を過ごすことができたことが本当に楽しく嬉しかったです。準備期間からずっと私たちを支えてくださったすべての方々に心から感謝しています。小規模校サミットを通して、学んだことをこれからの学校生活、今後の生き方に活かしていけるように努力を重ねていきたいです。最高の思い出を本当にありがとうございました。

◇小規模校サミット概要

【大会趣旨および主題】

～小規模校同士、誇りを持ち、かかわりあいで新たな発見を～

○趣旨：全国の小規模高校の生徒が交流し親睦を深めると共に、各校・地域が抱える課題について意見交換し、将来それぞれの地域で活躍する資質や能力、協働意識を育成する。

○主題：「今ここで起こっていることは、将来日本中で起こり得ること、小規模だからこそできることがきっとある」
～仲間と一緒に未来を考えよう～

○主催：全国高等学校小規模校サミット実行委員会

○共催：小国高校を支援する会

○後援：山形県小国町 小国町教育委員会 山形県教育委員会

小国高校同窓会 小国高校後援会 小国高校PTA

○協力：東北芸術工科大学デザイン工学部コミュニティデザイン学科



【日程および内容】

令和3年10月22日(金) オンラインにて開催

日 程	プ ロ グ ラ ム
18:00 ～19:30	前夜祭「参加者交流」

令和3年10月23日(土) オンラインにて開催

日 程	プ ロ グ ラ ム			
9:30	開会式 ※YouTube 配信			
9:50	セッション1【参加校取り組み紹介】 ※1ルームのみ YouTube 配信 分科会発表			
	1ターム	2ターム	3ターム	4ターム
	長野・軽井沢高校 高知・大方高校 北海道・標茶高校 山形・左沢高校 福島・猪苗代高校 山形・小国高校	宮城・志津川高校 山口・防府高校佐波分校 岩手・住田高校 山形・新庄南高校金山校 北海道・鶴川高校 島根・吉賀高校	岩手・大槌高校 宮城・岩ヶ崎高校 広島・大崎海星高校 山形・新庄北高校最上校 熊本・小国高校 山形・荒砥高校	山形・小国高校 山形・遊佐高校 広島・油木高校 三重・飯南高校 沖縄・本部高校
12:00	昼食休憩			
13:20	セッション2【講演】 ※YouTube 配信 演題「対話のチカラ」 講師 東北芸術工科大学デザイン工学部コミュニティデザイン学科 准教授 岡崎 エミ 氏			
14:00	セッション3 【生徒交流～ワークショップ～】 テーマ「お悩み相談をしよう！」		【大人ワークショップ】 全体講演、お悩み相談室	
16:50	閉会式			

【参加者】

北海道

北海道標茶高等学校	高校生3名
北海道鶴川高等学校	高校生2名

岩手県

岩手県立大槌高等学校	高校生10名
岩手県立住田高等学校	高校生7名

宮城県

宮城県志津川高等学校	高校生7名
宮城県岩ヶ崎高等学校	高校生7名

山形県

山形県立左沢高等学校	高校生2名
山形県立荒砥高等学校	高校生11名
山形県立小国高等学校	高校生65名
山形県立新庄北高等学校最上校	高校生7名
山形県立新庄南高等学校	高校生4名
山形県立新庄南高等学校金山校	高校生7名
山形県立遊佐高等学校	高校生2名

福島県

福島県立猪苗代高等学校	高校生9名
-------------	-------

長野県

長野県軽井沢高等学校	高校生4名
------------	-------

三重県

三重県立飯南高等学校	高校生5名
------------	-------

島根県

島根県立吉賀高等学校	高校生3名
------------	-------

広島県

広島県立大崎海星高等学校	高校生2名
広島県立油木高等学校	高校生6名

山口県

山口県立防府高等学校佐波分校	高校生5名
----------------	-------

高知県

高知県立大方高等学校	高校生9名
------------	-------

熊本県

熊本県立小国高等学校	高校生12名
------------	--------

沖縄県

沖縄県立本部高等学校	高校生2名
------------	-------

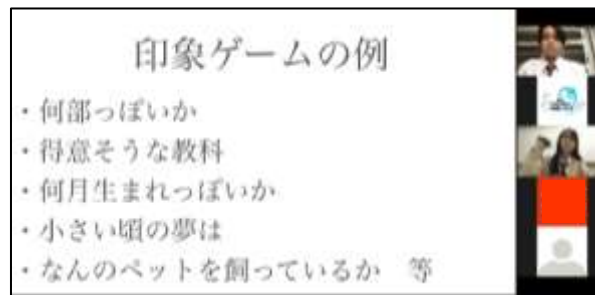
※ 参加高等学校 23 校 高校生 191 名

◇10/22(金) 前夜祭「参加者交流」

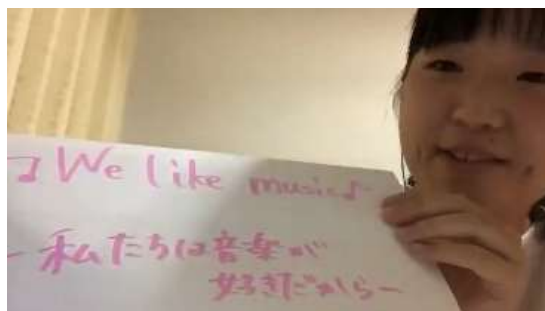
「サミット本番に向けてモチベーションを上げていこう！」という目標のもと、前夜祭がスタートしました。まず、グループに分かれて自己紹介を行い、その後アイスブレイク「印象あてゲーム」をしました。続いてグループ名をつけ、「ご当地クイズ」に挑みました。北は北海道、南は沖縄県まで参加者が集まるサミットということもあり、互いの地域について知る良い機会になりました。1時間半という短いイベントでしたが、グループ内を中心にたくさん対話ができ、翌日へ向けての良い時間が過ごせました。



前夜祭コアメンバーには山形小国4名の他に4校9名が立候補してくれて準備を進めました



アイスブレイクは「印象あてゲーム」



グループ名を話し合って決めました



19校125名の方が参加してくれました

◇受付（歓迎）

山形小国コアメンバーの一体感づくり係が作成した手作りのリストバンドを身に着けて、画面の前にスタンバイ。参加メンバーが「入室」してくるたびに笑顔で迎え入れていました。



◇開会式

開会式ではメインファシリの自己紹介、実行委員会代表の挨拶、オープニングムービー、開会宣言が行われました。



メインファシリテーターの山形小国2年の青木蒼空さんと和田彩日香さんが進行

【歓迎の言葉】

○全国高等学校小規模校サミット実行委員会生徒代表（小国高校生徒会長） 今野 優希



～きらめけ！小規模校、笑顔の星よ！～

参加校の皆さん。本日は参加していただきありがとうございます。今回の第4回小規模校サミットには191名の高校生が参加します。昨年と同様にオンラインでの開催となりましたが、全国の仲間とまた顔を合わせられたこと、とても嬉しく思います。

さて、「DOLPHIN」のグラドルールのもと、コアメンバー18名が小規模校サミットを盛り上げるために頑張ってきてくれました。コアメンバーの後輩たちの元気さには見習うべき点がたくさんあり、彼らから小国高校生一同インスピレーションをもらい、とても盛り上がっています。今回は、お悩み相談という形で全国の仲間とワークショップを行います。ファシリテーションからグラレコまで生徒が行い、一切小規模校と思わせないような盛り上がり期待できます。年に一度しかないこの関わりを、楽しめないともったいない！全国の高校生みんなで、本当に楽しかったと笑顔で終わられるように、笑顔を絶やさずイキイキとやっていきましょう！

【オープニングムービー上映】



山形小国高コアメンバーのウェルカム係4名が進行



参加校の協力を得て作成した
ウェルカムムービーがスタート！



各校から提供いただいた「二つ名」と写真で、参加校23校すべてを紹介（一部抜粋）

【開会宣言】

Zoomを通じて全国の参加校に開会宣言がなされました。



～宣言文～

僕たちは今までの練習通り
みんなで仲良く
真面目なときは真面目に
楽しむときは全力で楽しむ
そんなサミットにすることを誓います

令和3年10月23日

大方高校 2年 松岡 渉太

◇セッション1

【アイスブレイク：さくらんぼ体操・自己紹介】

セッションに先立って、メインファシリテーターよりサミットのグランドルール「DOLPHIN」についての確認や「リアクション図鑑」による反応の仕方の説明があり、その後ランダムにできたグループで自己紹介をして交流の輪を広げました。



「さくらんぼ体操」によるアイスブレイク
皆さんが楽しげに踊ってくれていました



ランダムで集まった4人で自己紹介



「死ぬまでにやりたいこと」や「地元の推し」なども紹介しあい、とても盛り上がりました



【参加校取り組み紹介】

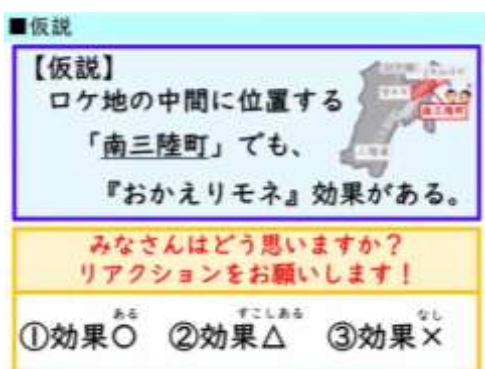
「小規模校の強みを生かした取り組み」「地域と協働している取り組み」「オンラインを活用した取り組み」などのテーマにそって、各参加校の発表が行われました。（画像は一部抜粋）



参加者が好きなルームに分かれて、みんな真剣に発表を聞きました



発表の場の進行は各校コアメンバーが担当



クイズも交えて楽しく紹介（宮城県志津川高校）



ラジオ局と協力して一からラジオを制作した活動について紹介（長野県軽井沢高校）



大槌町キャラクターの「おおちゃん」も参加（岩手県立大槌高校）



県外から入学した地域留学生在が高校の魅力を紹介（山形県立遊佐高校）



徳地地域の魅力アップを図る活動を紹介（山口県立防府高校佐波分校）



山形県の高島高との遠隔連携授業などを紹介（沖縄県立本部高校）

参加校取り組み紹介

ルーム NO,	参加校	タイトル
チーム1	1 長野県・軽井沢高校	関わる・つながるチーム軽高
	2 高知県・大方高校	NO HERE NOW HERE
	3 北海道・標茶高校	地域の人と関わって自分も標茶も深堀り！！
	4 山形県・左沢高校	地域の方と創り上げる左沢高校
	5 福島県・猪苗代高校	猪苗代高校～地域探究での取り組みについて～
	6 山形県・小国高校	小国高校推してもろて
チーム2	1 宮城県・志津川高校	朝ドラは南三陸に影響を及ぼすのか
	2 山口県・防府高校佐波分校	地域連携 SABA チャレンジ
	3 宮城県・岩ヶ崎高校	岩ヶ崎高校学校紹介
	4 山形県・新庄北高校金山分校	絢爛の金山校
	5 北海道・鶴川高校	多くの特色伝えます！！
	6 島根県・吉賀高校	小さな学校で、大きな夢を
チーム3	1 岩手県・大槌高校	#魅力を伝えたい
	2 広島県・大崎海星高校	こんにちは！みりよくゆうびんきよくです！
	3 岩手県・住田高校	オンライン体験入学 with 個性豊かな住校生
	4 山形県・新庄北高校最上校	地域を支え、地域に愛される最上 2021
	5 熊本県・小国高校	小規模校だからできること～熊本小国で青春してみない？～
	6 山形県・荒砥高校	#荒砥
チーム4	1 山形県・小国高校	小国高校推してもろて
	2 山形県・遊佐高校	遊びしかかたん
	3 広島県・油木高校	自己評価 75 点
	4 三重県・飯南高校	應援団 Circle
	5 沖縄県・本部高校	越境プロジェクトについて

◇昼食休憩



画面から離れてリフレッシュ！



昼食は各学校で食べました

◇セッション2

【講演】 演題 「対話のチカラ」

講師 岡崎 エミ 氏（東北芸術工科大学コミュニティデザイン学科准教授）

<要 旨>

対話とは、自分の言葉を通して何かを相手に届け、相手はそれに対する考えを言葉で届け、そしてその意味が往復しながらそれぞれの体の中、心の中に響き、気づきや成長を与えてくれるものです。対話は、私たちが思っている以上にパワフルなもの。

例えば、南アフリカの人種隔離政策は、対立する人種や部族同士が、アダム・カヘンというファシリテーターとともに、対話を重ねることで課題解決につながった好例です。つまり、どんな難しい課題も、まずは対話することから解決への道が開けていく可能性があるということです。

これからの時代は、唯一解が用意されている時代ではありません。最適解を自ら生み出すことが求められている時代です。そのためには、多くの知恵を持ち寄る必要があるため、対話には多様性が重要となってきます。年齢や育った環境、様々な考えを抱く人たちとの対話により、思いもよらなかった答えを生み出すことができるかもしれない。まったく新しい自分を見つけることにつながるかもしれません。

この小規模校サミットはまさにそれを可能とする場です。違う地域、多様な考え方、様々なバックグラウンドをもつ高校生たちがここに集まっています。ファシリテーターの人たちはうまくまとめられるかと不安になっているかもしれませんが、信じてほしいです。ここに参加している人たちはみないい聞き手であり、いい話し手であるということを。この場は特別で、大切な場です。語られる声に耳をすまし、そして自分の心の声を勇気をもって出してほしいと思います。

さあ、対話を楽しみましょう。そして、新しい自分に出会いましょう。



◇セッション3

【午後のアイスブレイク】



午後のスタートとして、みんなで「エビカニクス」を踊りました

【生徒交流～ワークショップ～】テーマ「お悩み相談をしよう！」

9つのお悩みテーマについて、32のグループに分かれてワークショップを行いました。

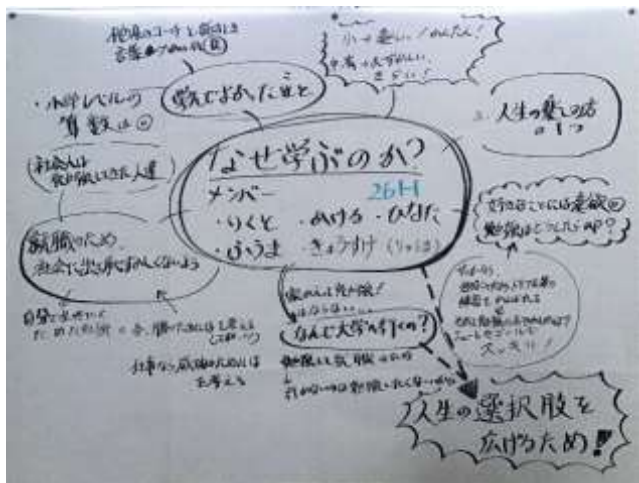
- 1 「小規模校の良さを知ってもらうには？」
- 2 「小規模校でも学校祭を盛り上げるには？」
- 3 「将来の夢を決める上で一番大事なことは？」
- 4 「限られた環境でどう理想に近づくか？」
- 5 「コミュカをつけるには？」
- 6 「みんなの幸せと自分の幸せ」
- 7 「高校生が企画するコロナ禍でみんなが楽しめるイベントは何か？」
- 8 「なぜ学ぶのか？」
- 9 「田舎ならではの趣味をつくるには？」



全国各地にいるチームメンバーが、離れていても共通のこと、共感できること、違っていることなどを感じながら様々なアイデアや意見を出し合いました



山形小国高校生とOB・OG、地域の方々、東北芸術工科大学生などがグラフィックレコーディングをしながら、ときにアドバイスしてくれて話し合いをサポートしてくれました



グラフィックレコーディングで対話を見える化し、サポートしていただきました

◇ YouTube 配信・大人ワークショップ

○ プログラム

YouTube 配信（ライブ配信）：開会式、参加校取り組み紹介、全体講演

大人ワークショップ：サミット概要説明、生徒交流の参観、大人向け全体講演、お悩み相談室

○ 大人向け全体講演

講師：三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング上席主任研究員 阿部 剛志 氏

演題：「地域×学校（高校）の意義を改めて考えてみよう

～なぜ、協働していく必要があるのだろうか～」

○ 大人のお悩み相談室

ルーム1 「高校魅力化の始め方、進め方」など

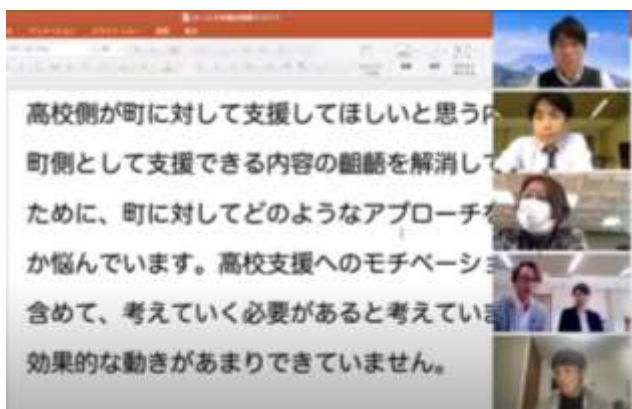
講師：岡崎 エミ 氏（東北芸術工科大学コミュニティデザイン学科）

ルーム2 「総探の進め方、地域の方の巻き込み方」など

講師：牛木 力 氏（東北芸術工科大学コミュニティデザイン学科）

ルーム3 「行政と学校の連携について」

講師：横山 真由美 氏（小国町総合政策課）・高橋 俊典 氏（小国町教育委員会）



◇閉会式

山形小国高3年ムービー係が作成したサミット当日の活動をまとめたショートムービーを鑑賞しながら振り返り。その後、各校の代表と司会の2名から、今日の活動を終えての感想を伝え合い、参加者全員と熱い思いの共有をはかりました。



閉会式終了後、オンライン画面で記念撮影し、全日程を終了しました。



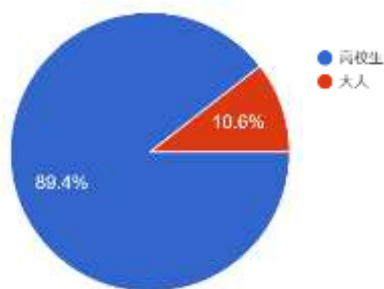
全国各地よりお集まりいただき、本当にありがとうございました！



◇第4回 全国高等学校小規模校サミット参加者アンケート集計結果

1. 回答者属性

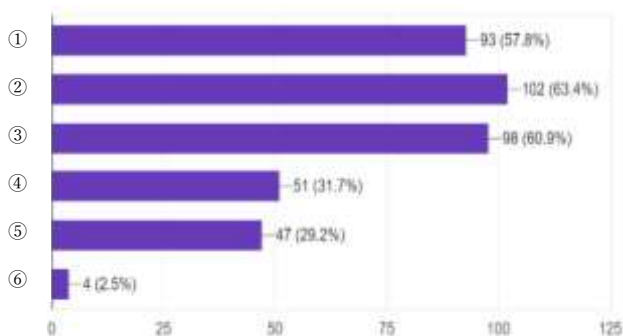
高校生の出身中学校



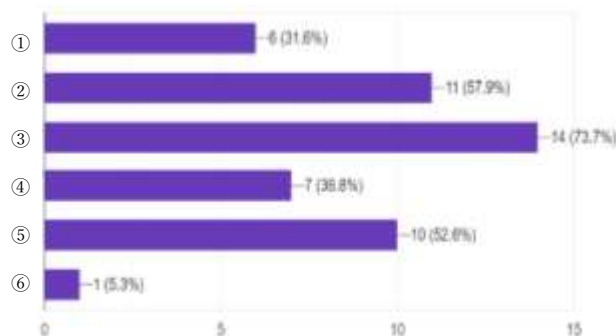
2. 周囲の環境（複数選択可）

- ①将来のことや実現したいことを話し合える大人がいる ②地域から大切にされている雰囲気を感じる
 ③地域の人や課題などに直に触れる機会がある ④自分の暮らす地域を、外からの視点で考える機会がある
 ⑤地域に尊敬している・憧れている大人がいる ⑥上記のどれも当てはまらない

【高校生】



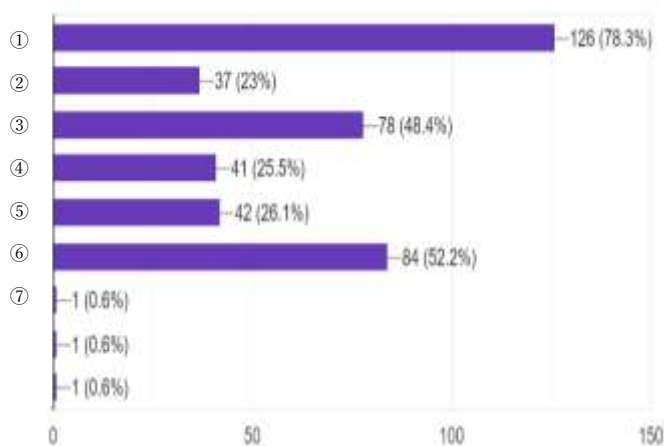
【大人】



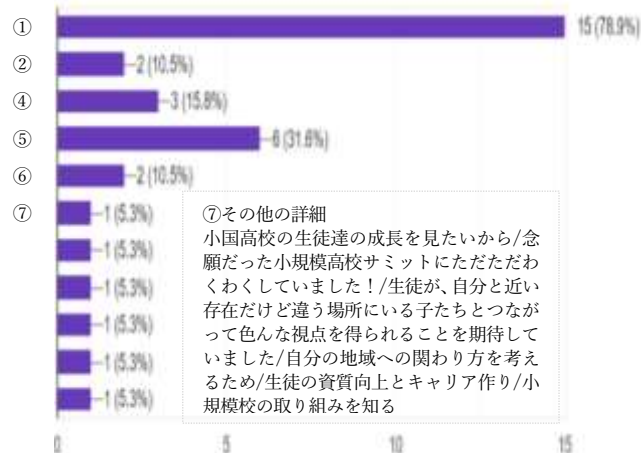
3. サミットへの期待（複数回答可）

- ①学校外の人と交流すること ②悩みを共有すること ③グループで協力しながら学ぶこと
 ④自分の地域の魅力や資源について考えること ⑤自分の地域の問題の解決方法について考えること
 ⑥思い出作り ⑦その他

【高校生】



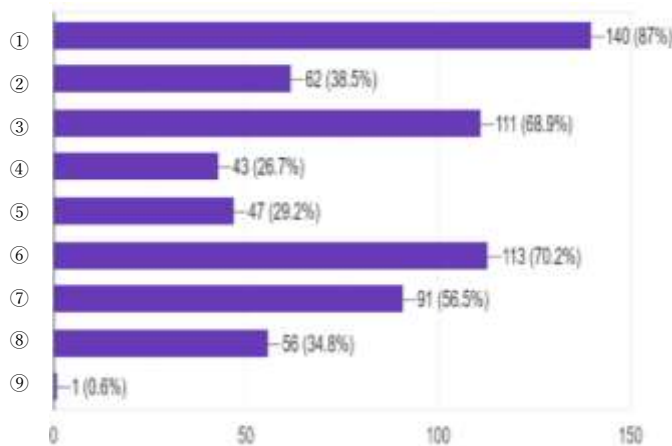
【大人】



4. サミットを通して得られたこと（複数選択可）

- ①学校外の人と交流できた ②悩みを共有できた ③グループで協力しながら学ぶことができた
④自分の地域の魅力や資源について考えることができた
⑤自分の地域の問題の解決方法について考えることができた ⑥思い出ができた
⑦視野が広がった ⑧自分に自信がついた ⑨その他

【高校性】



【大人】



5. 感想（一部抜粋）

【高校生】

- 自分が話すことが苦手でも失敗していい雰囲気だったり、たくさんリアクションしてくれてとても話しやすかった。
- 交流は楽しいし、悩みを打ち明けることで自分に自信が持てるし、成長できたように感じた。
- 自分は高校に入ってからやりたいことが見つからないことに悩んでいたのですが、サミットを通して自分のやりたいことの方向性について、考えを深めることができました。
- 今回初めての参加でしたが、あまり緊張せず頑張ることができまし、自分は人と話すのが苦手だったけど、小規模サミットのおかげで、苦手だったことを少しでもなくすことができ良かったです。そして、小国高校はじめたくさんの高校の皆様ありがとうございました。
- 普通に生活していたら交わらない人とも交流できたので良かったです。
- 小国のファシリテーターの方のファシリがうまくて、自分もこうなりたいと思いました。
- 初めてのサミットでとても緊張していましたが、すごく楽しかったです。色々な学校の取り組みを見ていて自分の学校はまだまだだなと感じまし、真似できそうなことがいっぱいありました。またグループでの話し合いは自分にはない意見を聞けて良かったです。
- 自分のコミュニケーション力も少しは鍛えられたと思うし、違う視点や意見を取り入れられたので、とても、有意義で楽しい時間になったなと感じました。ありがとうございました。
- 自分の高校の魅力を再確認することができまし、他校の魅力ある特色に触れることができてとてもよい機会でした。グループでは色々な話し合いができて楽しかったです！！
- 自分の価値観や自己肯定感を大きく変えることができた。また、今まで感想とか当てられても焦って意味わからないことを言っちゃったりしてたけど、参加前と比べると感想とかもパツと言えるようになって成長したなと思った。
- 今年もオンラインでの開催でしたが、楽しく交流できたと思います。ワークショップでのファシリテーターは不安と緊張でいっぱいでしたが、同じチームのメンバーの方や大学生にたくさん助けていただいて進めることが出来ました。ですが、問題解決に集中してしまい、対話という形をあまり大切に出来なかったのが経験を残して直していきたいです。

- ◻ 自分はみなさんのおかげで視野が広がりました。他校の皆さんも何か学べることであったり自分の中で、プラスになるものがあつたなら、サミットは本当に意味のあるものだったと思うし、またやりたいと思います。
- ◻ 今回初めてサミットに参加して、準備から色々大変な事があって、本番も最初はうまく話せずにいたけれど主催校である山形小国高校の生徒さんたちが楽しく盛り上げてくれて最後まで楽しめました！みんな同じような悩みを持っていて、自分だけじゃないことに安心したし解決に向けてがんばろうと思いました！
- ◻ アイスブレイクなどの企画のおかげで初対面の人とも緊張せずに話せるようになったり、自分の意見に自身を持って発表できるようになりました！！
- ◻ サミットをして積極的に自分から話せるようになったし質問とかできるようになった
- ◻ 素敵な活動をしている高校が沢山あって自分たちの高校もこういう取り組みがしたいと思った。また、色んな人と交流ができて普段できないような経験ができて良かった。

【大人】

- ◻ 来年は、小国町を訪問したい。
- ◻ オンラインで可能な内容を練り上げて準備いただき感謝いたします。何より、終わった後の生徒の充実感たっぷりの表情が全てを語っていました。主催の山形小国高校の皆様には4回とも本当にお世話になり、感謝いたします。たいへんお疲れ様でした！
- ◻ 小規模校の価値、良さをあらためて感じた会でした。とくに対話について。山形小国さんのはじけるような明るさの背景にある対話の姿勢や先生方の前向きさを感じましたし、そういった学びの土壌の大切さも岡崎さん・阿部さんのお話を通じて大人にもシェアされた場だったと思います。小規模校で発見されやすい良さを、中規模・大規模の学校にもつないでいくことも大切だと思います。このコミュニティで暖めている大切な知見を、日本全国にシェアするために私もできることを頑張りたいと思いました。
- ◻ 運営の皆さん本当にありがとうございました！！大変お疲れ様でした！！生徒たちの雰囲気が本当に素敵で交ざりたい思いを我慢するのが大変でした。
- ◻ 2回目の参加でしたが、いつも生徒が成長して、学校に学びを還元しています。ありがとうございます。
- ◻ ぜひ山形県内の高校からオフラインでの交流会を実施したいです。
- ◻ 終わった後に生徒と簡単に振り返りをしたのですが、午前中のワークや講演を聞いて感じたことを午後からのワークで実践できたという生徒がおり、他の生徒も新たな気づきがあった様だったので、生徒の成長が見られて良かったです。
- ◻ 運営、大変お疲れ様でした。段々と規模も大きく充実した内容となり、参加する側も（生徒の傍らで覗きながら）ワクワクします。貴重な機会をありがとうございました。また来年、楽しみにしています。
- ◻ 実際の様子を直に見てみたいと感じました。限られた時間のなかで、さまざま学ばせていただきました。ありがとうございました。
- ◻ 小規模校サミットの感想を生徒に聞くと、「楽しい」という回答でした。初めて会う生徒とコミュニケーションをとることが楽しいと思うことは生徒にとっても素晴らしい経験だと思います。このような経験を積極的にさせて、どんな人とも関われる生徒を一人でも多く育てたいと思います。また、取り組み校紹介の中で、本校を推し校に選んでくれた生徒がおり、発表した生徒も実際に活動している生徒もすごくうれしい様子が見られ、自分たちの活動に自信をもつことができました。これも小規模校サミットならではの良さだと感じます。加えて、昨年度も参加した生徒は今年度の活動を振り返っており、自分ができなかったことを考え、次に活かそうとする姿が見られました。生徒の今後にとっても自然と振り返りが行われ、これをきっかけに様々な活動を自分なりに振り返ってほしいなと期待します。
- ◻ 小国高校の生徒のコミュ力、ファシリ力が素晴らしい。先生方も一緒になって取り組み、大変だけど楽しんでいる様子が伝わりました。

6. 他にやってみたいこと

【高校生】

- インスタ交換会
- ゲーム、TRPG
- モノマネ大会
- ハロウィンパーティー
- ジェスチャーゲーム
- 年に何回かやりたい
- 学校紹介だけではなく、町紹介もやってみたらいいと思う。
- ただただ雑談をする
- テーマも何も決めていない状態でお悩み相談
- 全員と話をしたい！！
- 好きなものを語る！みたいな
- みんなと合宿したいです
- もっと楽しいアイスブレイクがやりたい！
- さくらんぼ体操みたいなやつ！
- 皆でしりとり、絵しりとり
- 中学生や外部の人に発信しながらみんなと対話したい。(今回のライブ版?)
- お互いの高校で流行っていることや遊びをする
- オンラインでみんなでお料理
- それぞれの高校がとった映像を繋いで一つのムービーを作る
- 他学校の生徒と動画が作ってみたい。
- 実際に実現させるものを話し合いたい、高校生が爪痕をつけれるようなイベントを
- 学校全体イルミネーション
- 他のブレイクアウトルームにも入りたい
- もっと色々な方と関わられるような企画をしたいです！

【大人】

- 今回のような探究学習をどんな風に進めているのか、成果や課題も含めて共有したり一緒に悩んだりできるような場が定期的にあつたらいいのかなと最近思っています！
- 小規模校サミットの趣旨とは逸れてしまうかと思いますが、他校同士の教員と生徒が交流できるような企画があると面白いと思いました。自校以外の生徒から学ぶことも多いかと思います。
- 生徒と大人の対話の時間があっても良いのかなと思いました。
- 大人の探究発表会
- ぜひ実際に集合してみたいと思います。
- 大人のワークショップの中で、4人グループぐらいのブレイクアウトルームを設定し、他校の先生方とよりコミュニケーションをとってみたい。
- 思いつきませんが、今回のように大人WSをもっとやってみたいです。

令和3年12月編集
全国高等学校小規模校サミット実行委員会
(山形県立小国高等学校内)